



Title	神奈川県立保健福祉大学：公衆衛生をベースにしながら次世代のヘルスイノベーションを育成する教育研究機関
Author(s)	鄭, 雄一
Citation	目で見えるWHO. 2026, 95, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104521
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

神奈川県立保健福祉大学/公衆衛生をベースにしながら次世代のヘルスイノベーターを育成する教育研究機関



神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科長・教授
鄭 雄一（てい ゆういち）

2019年の研究科設立から関与し、現在研究科長を勤める。東京大学大学院工学系および医学系研究科とのクロスアポイントメント。

本邦で急速に進行する少子高齢化の諸問題に対処するためには、既存の考え方や対応策のみでは限界が見え始めています。本研究科は、この限界を突破するために、新しい健康観「未病」を研究対象として学問体系化するとともに、社会起業家を育成し、新たな産業や政策を興し、さらには地方自治体のシンクタンクとして機能することを目指して2019年に設立されました（<https://www.kuhs.ac.jp/shi/>）。特に、神奈川県とは密接な連携体制をとっており、県に対して、人材育成・調査および研究成果・シンクタンク機能の提供を行う一方で、県からは、調査および研究フィールド・社会実装の場・グローバルネットワークの提供を受けています。

本研究科のディプロマポリシーの特徴については、知識の習得や分析のみなら

ず、合意形成・発信スキルや、業務遂行・組織管理スキルも重視し、社会実装を推進することができる人材の養成に努めています。講義は平日夜間と土曜日に開講し、社会人でも学びやすい環境を整えるとともに、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、また、国際化推進のため、原則英語の授業となっています。世界的な公衆衛生教育の基準を踏まえた基本5領域とともに、大学全体のミッションに関する「ヒューマンサービステ論」、本研究科の特徴的な考え方に関する「未病特論」や「ヘルスイノベーション概論」、昨今重要性がとみに増している「データサイエンス」や「ヘルスイノベーションにおけるRRI (Responsible Research and Innovation)」を必修科目としています。そこに、多彩な教授陣の各々が得意とする領域のヘルスイノベーション専

門科目（「健康危機管理論」、「医療技術評価」、「健康教育劇場」など）や、アウトプットを重視した実践・特別研究科目（「アカデミックプレゼンテーション」、「アントレプレナーシップ」、「政策分析・政策立案演習」など）を配置し、社会イノベーションを先導する人材の輩出を図っています。

学生は、社会人が主であり、保健・医療・福祉の分野からの人材（医師、歯科医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士など）にとどまらず、研究機関や企業からも多数学生が来ており、また、地方自治体の行政職員が必ず各学年に所属しているのも大きな特徴です。さらには、留学生在が各学年必ず複数人所属しており、アジアを中心に、アフリカや中東も含む10か国から来て学んでいます。

教授陣も同様に多様で、医・歯・薬・看護学の背景にとどまらず、アントレプレナーシップ、医療経済、病院管理、生物統計、HTA (Health Technology Assessment)、ELSI (Ethical, Legal and Social Issues)、政策分析・立案、スポーツ疫学などの専門分野を網羅し、外国籍の教員も5人所属しています。

研究科とともに立ち上がったイノベーション政策研究センターとは密接に連携して活動しており、未病指標プロジェクト、保健医療データ活用プロジェクト、下水サーベイランスプロジェクト、介護



ヘルスイノベーション研究科の外観 「ヘルスイノベーション研究科は、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにあります。キングスカイフロントは、川崎市殿町地区(羽田空港の南西、多摩川の対岸)に位置する、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点です（<https://www.king-skyfront.jp/about/>）。羽田空港まで、スカイブリッジで多摩川を渡って歩いていくこともできます。」



国際化や次世代課題に対する社会システムの革新に貢献

1

Copyright © 2018 Kanagawa University of Human Services. All rights reserved.

地方自治体との密接な連携

「ヘルスイノベーション研究科と神奈川県は、互いに持てるリソースを提供しあい、定期的にシーズ・ニーズマッチングを行いながら、コラボレーションしています」

の科学化のプロジェクト、ヘルスケア分野におけるイノベーション推進施策に関するプロジェクトなど、数多くの研究プロジェクトを推進しています。

(<https://www.kuhs.ac.jp/cip/>)

県から提供を受けたグローバルネットワークとしては、シンガポール国立大学、コンケン大学、マヒドン大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、スタンフォード大学、メリーランド大学など多岐にわたりますが、とりわけ WHO との「健康な高齢化」の研究における連携は密接で、この実績に基づき、2025 年の 3 月

に、健康な高齢化のイノベーションに関する WHO 協力センターに指定されました (<https://www.kuhs.ac.jp/shi/whocc/>)。現時点で、県内の唯一の WHO 協力センターであり、さらには、本邦の公衆衛生大学院としては唯一の WHO 協力センターです。活動内容は大きく分けて 3 つで、政策研究・人材育成・普及啓発となっており、今後、WHO の、特に、西太平洋事務局 (WPRO) と密接にコラボレーションすることで、研究科や大学全体の活性化とレベルアップにつなげ、本邦のみならず

世界の健康課題に関して、貢献できるように邁進していきたいと思っています。

少子高齢化の問題は、非常に多様で複雑であり、それに取り組む陣容にも多様な人材とそのコラボレーションが求められます。また、既存の枠組みでは解決できない問題も多く含まれており、枠を飛び出す勇気も必要です。これはまさにアントレプレナーシップそのものです。多様性、協力、挑戦をモットーに、社会システムのイノベーションを目指して、活動していきたいと思っています。



ヘルスイノベーション研究科の内部（教室）

「ヘルスイノベーション研究科の教室の壁は可動式で、小教室から大教室までニーズに応じて自在に変化できるようになっています」



ヘルスイノベーション研究科の内部（廊下）

「ヘルスイノベーション研究科の廊下の部分は、学生や教員が自由に集って議論できるように工夫されています」